

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-134483

(P2001-134483A)

(43) 公開日 平成13年5月18日 (2001.5.18)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード* (参考)
G 0 6 F 12/00	5 4 6	G 0 6 F 12/00	5 4 6 P 5 B 0 7 5
13/00	3 5 4	13/00	3 5 4 D 5 B 0 8 2
17/30		15/40	3 1 0 F 5 B 0 8 9

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平11-316738

(22) 出願日 平成11年11月8日 (1999.11.8)

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 香野 信幸

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

(74) 代理人 100057445

弁理士 岩橋 文雄 (外2名)

Fターム(参考) 5B075 K007 K040 M020 P002 P003

P002 P042 L040

5B082 E007 HA05

5B089 G004 JA22 JB14 KA00 KB07

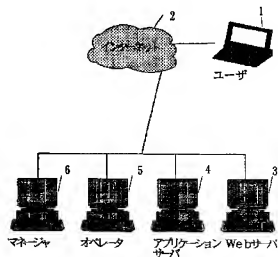
LB14

(54) 【発明の名称】 ウェブブラウジング方法

(57) 【要約】

【課題】 ユーザ側端末がブラウズ中のコンテンツを特定クライアント側端末からブラウズすることができるウェブブラウジング方法を提供することを目的とする。

【解決手段】 インターネット2によるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバ3にアクセスしたユーザ側端末1がブラウズしている現在表示中のコンテンツのURL情報をアプリケーションサーバ4を介して特定のオペレータ側端末5に送信する送信ステップと、ユーザ側端末1から送信されてきたURL情報のコンテンツを特定のオペレータ側端末5で表示する表示ステップとを有する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスしたユーザ側端末がブラウズしている現在表示中のコンテンツの URL 情報をアプリケーションサーバを介して特定のクライアント側端末に送信する送信ステップと、前記ユーザ側端末から送信されてきた URL 情報のコンテンツを前記特定のクライアント側端末で表示する表示ステップとを有することを特徴とするウェブブラウジング方法。

【請求項 2】 インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスした特定のクライアント側端末がブラウズしている現在表示中のコンテンツの URL 情報をアプリケーションサーバを介してユーザ側端末に送信する送信ステップと、前記特定のクライアント側端末から送信されてきた URL 情報のコンテンツを前記ユーザ側端末で表示する表示ステップとを有することを特徴とするウェブブラウジング方法。

【請求項 3】 インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスしたユーザ側端末がブラウズしている現在表示中のコンテンツの URL 情報をアプリケーションサーバを介して特定の複数のクライアント側端末に送信する送信ステップと、前記ユーザ側端末から送信されてきた URL 情報のコンテンツを前記特定の複数のクライアント側端末で同時に表示する表示ステップとを有することを特徴とするウェブブラウジング方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はインターネット上のウェブブラウジング方法に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、インターネットによるウェブブラウジング (Web Browsing) 方法では、ウェブサーバを運営している側は、ユーザ側端末に対してコンテンツを提供することはできるが、現時点においてユーザ側端末が何のコンテンツをブラウズしているかは分からなかった。

【0003】 このため、ウェブを利用して電話サービスを提供しているような会社では、電話応対時にユーザ側端末がどのページ (コンテンツ) をブラウズ中なのかをユーザに聞いてから商品説明などをする必要があった。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 このように、従来のウェブブラウジング方法では、ユーザ側端末がどのページをブラウズ中なのかをユーザに聞く必要があり、低効率であるという問題点を有していた。

【0005】 このウェブブラウジング方法では、ユーザ側端末がブラウズしているウェブサーバのコンテンツを示す URL (Uniform Resource Locator: インターネット上のリソースのローケーシ

ョンを指し示す記述様式) 情報をアプリケーションサーバを介して特定のクライアント側端末に送信し、ユーザ側端末がブラウズ中のページ (コンテンツ) を特定のクライアント側端末からブラウズ可能にすることが要求されている。また、逆に特定クライアント側端末がブラウズ中のページをユーザ側端末でブラウズ可能にすることが要求されている。

【0006】 本発明は、ユーザ側端末がブラウズ中のコンテンツを特定クライアント側端末からブラウズすることができ、また逆に特定クライアント側端末がブラウズ中のコンテンツをユーザ側端末からブラウズすることができるウェブブラウジング方法を提供することを目的とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するために本発明のウェブブラウジング方法は、インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスしたユーザ側端末がブラウズしている現在表示中のコンテンツの URL 情報をアプリケーションサーバを介して特定のクライアント側端末に送信する送信ステップと、ユーザ側端末から送信されてきた URL 情報のコンテンツを特定のクライアント側端末で表示する表示ステップとを有する構成を備えている。

【0008】 これにより、ユーザ側端末がブラウズ中のコンテンツを特定クライアント側端末からブラウズすることができるウェブブラウジング方法が得られる。

## 【0009】

【発明の実施の形態】 本発明の請求項 1 に記載のウェブブラウジング方法は、インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスしたユーザ側端末がブラウズしている現在表示中のコンテンツの URL 情報をアプリケーションサーバを介して特定のクライアント側端末に送信する送信ステップと、ユーザ側端末から送信されてきた URL 情報のコンテンツを特定のクライアント側端末で表示する表示ステップとを有することとしたものである。

【0010】 この構成により、ユーザ側端末がブラウズしているコンテンツと同じコンテンツが特定のクライアント側端末で表示され、電話サービス等において、見ている内容をユーザに確認することが不要になるという作用を有する。

【0011】 請求項 2 に記載のウェブブラウジング方法は、インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスした特定のクライアント側端末がブラウズしている現在表示中のコンテンツの URL 情報をアプリケーションサーバを介してユーザ側端末に送信する送信ステップと、特定のクライアント側端末から送信されてきた URL 情報のコンテンツをユーザ側端末で表示する表示ステップとを有することとしたものである。

【0012】この構成により、特定のクライアント側端末がブラウザしているコンテンツと同じコンテンツがユーザ側端末で表示され、電話サービス等において、見ている内容を特定のクライアントに確認することが不要になるという作用を有する。

【0013】請求項3に記載のウェブブラウジング方法は、インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスしたユーザ側端末がブラウザしている現在表示中のコンテンツのURL情報をアプリケーションサーバを介して特定の複数のクライアント側端末に送信する送信ステップと、ユーザ側端末から送信されてきたURL情報のコンテンツを特定の複数のクライアント側端末で同時に表示する表示ステップとを有することとしたものである。

【0014】この構成により、ユーザ側端末がブラウザしているコンテンツと同じコンテンツが特定の複数のクライアント側端末で表示され、電話サービス等において、或る特定のクライアント側端末から別の特定のクライアント側端末に交替したような場合に、見ている内容をユーザに再度確認することが不要になるという作用を有する。

【0015】以下、本発明の実施の形態について、図1～図4を用いて説明する。

【0016】(実施の形態1) 図1は本発明の実施の形態1によるウェブブラウジング方法が適用されるウェブブラウジングシステムを示す構成図である。

【0017】図1において、1はユーザ側端末、2はインターネット、3はウェブサーバ、4はアプリケーションサーバ、5はオペレータ側端末、6はマネージャ側端末である。

【0018】図2は図1のウェブブラウジングシステムにおけるプログラム、データの関連を示すプログラム・データ関連図である。

【0019】図2において、11はユーザ側端末1上のアプレットプログラム、12はアプリケーションサーバ4上のアプリケーションサーバプログラム、13は特定クライアント登録リスト、14はオペレータ側端末5上のアプレットプログラム、15はマネージャ側端末6上のアプレットプログラムである。

【0020】このように構成されたウェブブラウジングシステムにおけるウェブブラウジング方法について、図3、図4を用いて説明する。図3は、図1のウェブブラウジングシステムにおけるユーザ側端末1からのウェブブラウジング過程を示すフローチャートであり、図4は、図1のウェブブラウジングシステムにおけるオペレータ側端末5からのウェブブラウジング過程を示すフローチャートである。

【0021】先ず、ユーザ側端末1の表示内容をオペレータ側端末5に表示する過程を図3を用いて説明する。

【0022】図1のユーザ側端末1のユーザがインター

ネット2を経由してウェブサーバ3にアクセスすると、ウェブサーバ3よりアプレットプログラム11がユーザ側端末1にロードされる。ロードされたアプレットプログラム11は、ウェブサーバ3のコンテンツをブラウザ機能によりユーザ側端末1上に表示する。

【0023】ここでユーザがブラウザ中のページのリンク部分(URL)をクリックすると、ユーザ側端末1上のアプレットプログラム11は、そのURL情報を読み取り、ブラウザでそのURLのページを表示する(S1)。次に、ユーザ側端末1はURL情報をアプリケーションサーバ4に送信する(S2、送信ステップ)。すなわち、ソフトウェア上では、アプレットプログラム11が、URL情報をアプリケーションサーバ4上のアプリケーションサーバプログラム12に送信する。このとき、アプレットプログラム11がアプリケーションサーバプログラム12にデータ送信するためには、アプリケーションサーバ4のIPアドレスを予め知っておく必要がある。これは、アプレットプログラムをウェブサーバ3に置くときに、アプリケーションサーバ4のIPアドレスを埋め込んでおくことで容易に実現することができる。次に、アプリケーションサーバプログラム12は、特定クライアント登録リスト13を参照し、オペレータ側端末5のIPアドレスを得る(S3)。IPアドレスを記憶することにより登録リストの参照は初回のみでもいい。次に、アプリケーションサーバプログラム12は、URL情報をオペレータ側端末5上のアプレットプログラム14に送信する(S4、送信ステップ)。このとき、オペレータ側端末5もユーザ側端末1と同様にウェブサーバ3にアクセスしてアプレットプログラム14が予めロードされているものとする。また、アプレットプログラム14はアプレットプログラム11と同じものであっても構わない。アプレットプログラム14は、標準ブラウザをポップアップし、受信したURL情報のページをオペレータ側端末5上に表示する(S5、表示ステップ)。このとき、標準ブラウザのポップアップとそこの表示とは、一般的なJAVAスクリプト等により簡単に実現することができる。

【0024】以上により、ユーザ側端末1の表示内容をオペレータ側端末5に表示でき、双方でウェブ共有が実現できることになる。

【0025】次に、オペレータ側端末5の表示内容をユーザ側端末1に表示する過程を図4を用いて説明する。

【0026】図1のユーザ側端末1のユーザがインターネット2を経由してウェブサーバ3にアクセスすると、ウェブサーバ3よりアプレットプログラム11がユーザ側端末1にロードされる。ロードされたアプレットプログラム11は、ウェブサーバ3のコンテンツをブラウザ機能によりユーザ側端末1上に表示する。

【0027】オペレータがブラウザ中のページのリンク部分(URL)をクリックすると、オペレータ側端末5

上のアプレットプログラム14は、そのURL情報を読み取り、ブラウザでそのURLのページを表示する（S11）。アプレットプログラム14は、URL情報をアプリケーションサーバ4上のアプリケーションサーバプログラム12に送信する（S12）。アプリケーションサーバプログラム12は、URL情報をユーザ側端末1上のアプレットプログラム11に送信する（S13、送信ステップ）。このとき、アプリケーションサーバプログラム12は、先にステップS2で説明したように、URL情報の受信の際にユーザ側端末1のIPアドレスを事前に得ているため、特にIPアドレスの登録リストは必要ない。次に、アプレットプログラム11は、標準ブラウザをポップアップし、受信したURL情報のページをユーザ側端末1上に表示する（S14、表示ステップ）。

【0028】以上により、オペレータ側端末5の表示内容をユーザ側端末1に表示でき、双方でウェブ共有が実現できることになる。

【0029】また、図2の特定クライアント登録リスト13に、オペレータ側端末5のIPアドレスの他にマネージャ側端末6のIPアドレスも登録しておき、ステップS3で両端末5、6のIPアドレスを得ておき、ステップS4で両端末5、6にURL情報を送信するようにすれば、オペレータ側端末5の他にマネージャ側端末6上でも、同時にユーザ側端末1の表示内容を表示することが可能となる。

【0030】以上のように本実施の形態では、ウェブサーバ3にアクセスしたユーザ側端末1がブラウザしている現在表示中のコンテンツのURL情報をアプリケーションサーバ4を介して特定のオペレータ側端末5に送信する送信ステップ（S2、S4）と、ユーザ側端末1から送信されてきたURL情報のコンテンツを特定のオペレータ側端末5で表示する表示ステップ（S5）とを有するようにしたことにより、ユーザ側端末1がブラウザしているコンテンツと同じコンテンツを特定のオペレータ側端末5で表示することができるので、電話サービス等において、見ている内容をユーザに確認することが不要になる。

【0031】また、ウェブサーバ3にアクセスした特定のオペレータ側端末5がブラウザしている現在表示中のコンテンツのURL情報をアプリケーションサーバ4を介してユーザ側端末1に送信する送信ステップ（S12、S13）と、特定のオペレータ側端末5から送信されてきたURL情報のコンテンツをユーザ側端末1で表示する表示ステップ（S14）とを有するようにしたことにより、特定のオペレータ側端末5がブラウザしているコンテンツと同じコンテンツをユーザ側端末1で表示することができるので、電話サービス等において、見ている内容を特定のクライアントに確認することが不要になる。

【0032】さらに、ウェブサーバ3にアクセスしたユーザ側端末1がブラウザしている現在表示中のコンテンツのURL情報をアプリケーションサーバ4を介して特定の複数のオペレータ側端末5、マネージャ側端末6に送信する送信ステップと、ユーザ側端末1から送信されてきたURL情報のコンテンツを特定の複数のオペレータ側端末5、マネージャ側端末6で同時に表示する表示ステップとを有するようにしたことにより、ユーザ側端末1がブラウザしているコンテンツと同じコンテンツを特定の複数のオペレータ側端末5、マネージャ側端末6で表示することができるので、電話サービス等において、或る特定のオペレータ側端末5から別の特定のマネージャ側端末6に交替したような場合に、見ている内容をユーザに再度確認することが不要になる。

【0033】

【発明の効果】以上説明したように本発明の請求項1に記載のウェブブラウジング方法によれば、インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスしたユーザ側端末がブラウザしている現在表示中のコンテンツのURL情報をアプリケーションサーバを介して特定のクライアント側端末に送信する送信ステップと、ユーザ側端末から送信されてきたURL情報のコンテンツを特定のクライアント側端末で表示する表示ステップとを有することにより、ユーザ側端末がブラウザしているコンテンツと同じコンテンツを特定のクライアント側端末で表示することができるので、電話サービス等において、見ている内容をユーザに確認することが不要になるという有利な効果が得られる。

【0034】請求項2に記載のウェブブラウジング方法によれば、インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスした特定のクライアント側端末がブラウザしている現在表示中のコンテンツのURL情報をアプリケーションサーバを介してユーザ側端末に送信する送信ステップと、特定のクライアント側端末から送信されてきたURL情報のコンテンツをユーザ側端末で表示する表示ステップとを有することにより、特定のクライアント側端末がブラウザしているコンテンツと同じコンテンツをユーザ側端末で表示することができるので、電話サービス等において、見ている内容を特定のクライアントに確認することが不要になるという有利な効果が得られる。

【0035】請求項3に記載のウェブブラウジング方法によれば、インターネットによるウェブブラウジング方法であって、ウェブサーバにアクセスしたユーザ側端末がブラウザしている現在表示中のコンテンツのURL情報をアプリケーションサーバを介して特定の複数のクライアント側端末に送信する送信ステップと、ユーザ側端末から送信されてきたURL情報のコンテンツを特定の複数のクライアント側端末で同時に表示する表示ステップとを有することにより、ユーザ側端末がブラウザして

いるコンテンツと同じコンテンツを特定の複数のクライアント側端末で表示することができるので、電話サービス等において、或る特定のクライアント側端末から別の特定のクライアント側端末に交替したような場合に、見ている内容をユーザに再度確認することが不要になるという有利な効果が得られる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の実施の形態 1 によるウェブブラウジング方法が適用されるウェブブラウジングシステムを示す構成図

【図 2】図 1 のウェブブラウジングシステムにおけるプログラム、データの関連を示すプログラム・データ関連図

【図 3】図 1 のウェブブラウジングシステムにおけるユーザ側端末からのウェブブラウジング過程を示すフロー\*

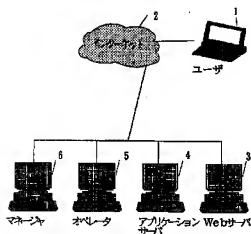
#### \* チャート

【図 4】図 1 のウェブブラウジングシステムにおけるオペレータ側端末からのウェブブラウジング過程を示すフローチャート

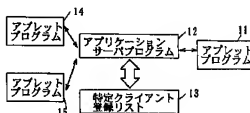
#### 【符号の説明】

- 1 ユーザ側端末
- 2 インターネット
- 3 ウェブサーバ
- 4 アプリケーションサーバ
- 5 オペレータ側端末
- 6 マネージャ側端末
- 11、14、15 アプレットプログラム
- 12 アプリケーションサーバプログラム
- 13 特定クライアント登録リスト

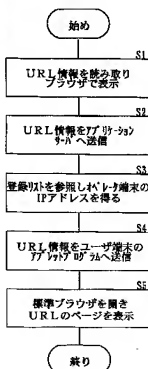
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

